

## 「桑名教会の『戦後 70 年』」

2016 年 01 月 22 日

友人の南吉衛牧師が伝道・牧会している桑名教会（三重県桑名市）が『戦後 70 年』という冊子を出し、贈ってくださった。教会員が心一つにして、聖書の御言葉に導かれ、平和を求めて祈り、行動していることに深い感銘を受けた。2015 年度の教会総会において、「敗戦後 70 年」の重要な年であることに鑑み、特別な集会・活動を行うと計画し、そのまゝとめとして、今思うことを自由に記し『戦後 70 年』を出したという。教会員が 50 人くらいであるが、31 人もの人が平和への篤い思いを寄稿している。

桑名教会役員会の名で「私たちは安全保障関連法案に反対します」という声明も掲載されていて、感動した。一つの教会が明確に意志表示をしていることは稀有なことである。下記のように声明している。「私たち桑名教会の歩みを振り返って見ます時、時代と社会・政治の状況の中で、僅かであれ聖書の信仰に基礎を置いた発言と行動を取って来ました。私たちにあって、イエス・キリストの主権がなござりにされ、冒されている時に、『まるで何もなかった』かのように、信仰生活を続けることは許されません。」

1967 年 3 月、時の日本基督教団議長・鈴木正久牧師の名で「第二次大戦下における日本基督教団の責任についての告白（戦争責任告白）」が出された。戦争中、教会の使命をないがしろにし、戦争に協力して大きな過ちを犯したことを悔い、世界と殊にアジア諸国に赦しを請うた告白である。桑名教会は、この戦争責任告白に立脚している。安保関連法案について、多くの団体、宗教関係団体も反対を表明している中で、桑名教会の声明は「私たちの桑名教会におきましても、日本の将来に生きる我が子や孫が人を殺し殺されることのない社会になるように、祈り行動していくことを公にいたします」と結んでいる。

主イエスの十字架と復活は私の救いであるが、全ての人々の生を是認し、生きよと、神の愛と正義が現された福音である。殺し殺される人間否定に反対し、共に生きる平和を求める使命を与えられている。福音は当然、社会的な責任を負うことである。

31 人が寄せた『戦後 70 年』の中で、75 歳を超えた方々には年齢を書き加えたとしている。その方々の寄稿の一部を紹介したい。77 歳の M・K 姉は、安保法制が成立し、戦争する国になっていくことに危機感を抱いているが、「日本の歴史には権力に抗する強い意志、真実な思慮を持った人々が実存したことも事実である。また今回の情勢に対して若い人の政治への動きも生まれてきて、決して絶望することはないと確信している」と希望を語っている。86 歳の I・S 姉は下記の短歌を寄せている。「九条に守られて来しこの平和 絶対に許すな、戦争法案」、「九条を壊すな唯一の宝なり 八十路の我もデモに参加す」。90 歳の H・T 姉は「戦争に類することだけは、絶対に駄目です。憲法は、解釈次第というほど恐ろしいことはありません。憲法九条は、当時の若者の命の代償ということをおぼわすはなりません」と述べている。91 歳の M・T 姉は「平和の有りがたさを心より感謝しております。現在の若者が兵隊にいかなくてもいいように九条を守りましょう」と書いている。

南牧師は「今後、政治の流れが、戦争を起こすことが可能な道に進む恐れが出て来ましたが、わたしには、微力でも何とかしてそれに抗する道を歩むことが使命として与えられているように思います」と書き、教会でチラシを作り駅前配ったこと、桑名で行われたデモに、教会員の大人 44 名、小学生 3 名が参加したことを報告している。桑名教会は御言葉に培われ、確かな福音を生き、証している。目覚めて祈り、行動していることに敬服した。今、全国の教会に求められていることである。